

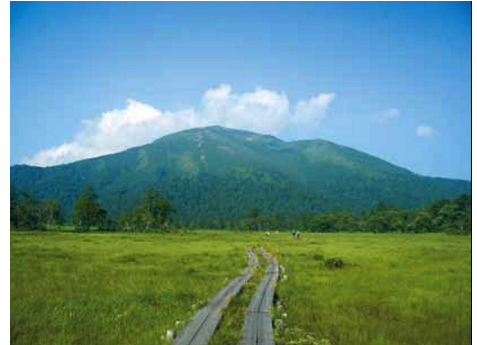
校長室の窓から

平成30年7月18日(水)

培根の教育 No.6

尾瀬学校特集(その1)

先週の7月13日(金)に4年生が「尾瀬」に行ってきました。「尾瀬」は、群馬、福島、新潟、栃木の4県にまたがる「国立公園」です。本州で一番広い湿原「尾瀬ヶ原」や「尾瀬沼」があり、その貴重な自然を守ろうと、国立公園でも一番利用規制の厳しい「特別保護地区」や国の「特別天然記念物」に指定されているほか「ラムサール条約湿地」にも登録されています。尾瀬学校は、尾瀬の自然を学ぶ機会として群馬県が進めている事業で、希望すればどの学校でも行けるものです。碓東小学校は今年初めて実施してみました。



当日は、天候にも恵まれて最高の尾瀬日和となりました。1, 2組をそれぞれ4班ずつに班分けし、各班に尾瀬を専門に案内してくれるガイドさん1人ずつついて、どんな質問にも答えてくれたり健康状態も気遣ってくれたりして子供たち一人一人にきめ細かく気配り、目配りをしてくださいました。そのお蔭でだれも脱落することなく、全員が約11キロの道のりを歩ききることができました。その日の様子を、写真と子供たちの感想を中心にお知らせします。

◎尾瀬に行って、いろいろな植物や虫などを見られて楽しかったです。ミズバショウの花は見られなかったのは残念だったけど、他の珍しい花が見られて良かったです。4つの県にまたがっているのはすごい。



見たこと・・・ハッチョウトンボ、オレンジ色のゆり、とげとげのある葉、タテヤマリンドウ、オゼホウコネ、ヒツジグサ、ニホンイモリ

聞いたこと・・・「オゼ」という名前がついているのは尾瀬にしかない植物や虫のこと

↑日本一小さいハッチョウトンボ

◎ハッチョウトンボは、日本で一番小さいトンボだということがわかった。コバイケイソウをさわってみたら、さらさらしていて気持ち良かった。ナメクジが結婚していて、卵を産んでいて、自然的だった。ガイドさんが、カッコウはオスがメスの結婚相手を探すために「カッコウ」と鳴いていて、メスが見つかるまでずっと鳴いているから、たくさん鳴いているカッコウは、鳴いているほどモテてないと教えてくれた。ミズバショウは、英語ではスカンクキャベツということがわかった。なんでその名前かというと、ミズバショウは、スカンクみたいにくさくて、葉っぱはキャベツみたいだから。ニッコウキスゲは、花びらが6枚に見えるけど、本当はそのうちの3枚が花びらで、残りの3枚はがくだということもわかった。オゼコウホネは、ふつうの花よりすごく小さかったです。

↓ニッコウキスゲ



↑尾瀬の木道を歩く

もくどう
◎木道は、7～10年ほどで腐ったり壊れたりしてしまう。取り替えるときは、ヘリコプターで材料を運び、手作業で直す。尾瀬の自然は、多くのお金と人の手がかかっている。また、公衆トイレや山小屋から出るゴミや汚れた水が流れ出ると、湿原や川がおせんされてしまうので、水をきれいにする施設などを作り、自然を守っている。

私たちにできること・・・ゴミを持ち帰る。石けんなどを使わない。花などを持ち帰ったり、ふんだりしない。きれいな自然を保つには、一人一人が気をつけて約束を守ることだと思いました。